

(別紙5)

整理番号 2018P-045
補助事業名 平成30年度 国際交流の推進活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人中近東文化センター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

日本人による古代オリエント史の「年表(文化編年)」の再構築を目指し、自らの「年表」により歴史を語ることを一つの目的とする。併行して出土遺物、遺構の保存、修復、つまり「文化財保存」に重点を置く。そして日本、トルコ、欧米の次世代を担う若手研究者を養成し、各国の若者が世界に目を向ける切っ掛けとなることをもって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

[カマン・カレホユック遺跡発掘調査](#) [考古学、植物考古学フィールドコース](#)
[競輪補助事業完了のお知らせ](#)



カマン・カレホユック発掘作業



植物考古学
フィールドコース



考古学フィールドコース



博物館学フィールドコース

平成30年度も、遺跡、遺物の保存修復活動、および植物考古学フィールドコース、考古学フィールドコース、博物館学フィールドコース、「考古学の授業」等の活動を行いました。

特に当該事業の核となるフィールドコースでは、2年に1度計画される植物考古学フィールドコースが好評のため豪州立クイーンズ大学の講師ローナ・フェンウィックによって前年度に引き続き開催されています。学生たちは自分たちで発掘現場から種子の炭化物を採集し、洗い、乾燥等の工

(別紙5)

程を経て分類、考察まですべて実際に体験しました。

考古学フィールドコースでは、日本から参加した学生が実際にカマン・カレホユック遺跡の発掘作業を体験し、出土した様々な遺物(土製品、青銅製品、ガラス、骨など)と保存状態の良い建築遺構を教材として授業を行ないました。博物館学フィールドコースでは、トルコ国内の保存修復センター所属の若手の保存修復専門家を対象に、当該年度は紙製品の保存修復について実践的な技術を学びました。

当該事業は、常に「発掘調査」と「文化財保存」を中心に据えた人材の育成と国際交流を目指しており、平成30年度も大きな役割を果たすことができたと考えています。

2 予想される事業実施効果

当該年度も日本、欧米各国から参加した学生たちにとって、地元の発掘作業員やトルコの学生たちとの交流や各国の研究者を目指す学生たちとのミーティングは、貴重な体験であったと言えるでしょう。トルコ国内の大学や保存修復センターから参加する多くの学生、若手の保存修復専門家も、非常に大きな刺激を受けてそれぞれの大学、機関に戻りました。ここでの経験から博物館学芸員や教員、政府機関である考古局への入局を目指す学生たちが大勢います。

特に博物館学フィールドコースに対するトルコ政府、文化観光省の期待はたいへんに大きいものになっており、これまでの受講者はすでに 200 名を超えています。博物館に戻った学芸員が解説パネルや展示仕方に工夫を凝らし、保存修復専門家が習得した技術を用いて収蔵品の保存修復を行なうなど実際に成果を上げています。現在、紙製品の修復に関するフィールドコースを開催しており、トルコ国内の博物館に膨大に収蔵されるコーランなどの古書や細密画等の保存修復も進んでいくでしょう。

当該事業は、人材育成はもとより、日本とトルコの国としての強い絆にも貢献していると言えるのではないのでしょうか。今後はさらに様々な分野で活躍する人材が輩出されると期待されます。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

該当なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 中近東文化センター

(コウエキザイダンハウジン チュウキントウブンカセンター)

住 所： 〒181-0015

東京都三鷹市大沢3-10-31

代 表 者： 理事長 阿部 知之 (アベ トモユキ)

担 当 部 署： アナトリア考古学研究所 (アナトリアコウコガクケンキュウジョ)

担 当 者 名： 事務担当 吉田 知子 (ヨシダ トモコ)

電 話 番 号： 0 4 2 2—3 2—7 6 6 5

F A X： 0 4 2 2—3 1—9 4 5 3

E - m a i l： tokyo@jiaa-kaman.org

U R L： <http://www.jiaa-kaman.org/>